

## 第1部

# アイヌ教育に一生を捧げた 白井 柳治郎



白井 柳治郎

## 特集

# 郷土の歴史と文化を知る

虻田小学校の敷地内に胸像と頌徳碑が建てられている。虻田小学校第14代校長白井柳治郎。茨城生まれの白井が、アイヌ救済を夢見て、虻田に移住してから今年で110年、没後45年を迎えます。

現在この偉人の業績を後世に残そうと、白井日記をひもとく会が結成され、白井が生前書いてきた日記のデータ化を進めています。その前段としてA4版150ページにわたる「アイヌの慈父 白井柳治郎年譜」が発行されました。白井柳治郎の歩んだ道を振り返ります。

**白** 井柳治郎が、アイヌの救済のため渡道する決意を固めたのは、当時農業教員養成学校としては最高学府である、駒場（東京帝国大学）農科大学付属農業教員養成所に入學して間もなくのことです。

明治33年（1900年）5月に開かれた「北海道旧土人救育会設立演説会」に参加し、「旧土人救育」という言葉を初めて聞き、弁士として登場した小谷部全一郎の話に大いに刺激を受けたこ

とがきっかけです。

本来ならエリートとして立身出世が望める立場であったわけですが、あえてそれを選ばず、アイヌのためにこれからの人生を捧げようと、この集会后18歳の身で決意したのです。

その後も、この気持ちが途切れることはなく、小谷部全一郎にアイヌ救済事業への参加を訴え続け、その熱意に初めは色よい返事をしなかった同氏も折れて、翌年同養成所を卒業すると

助手として北海道に渡ることになりました。

### 虻田第2尋常小学校の閉校

明治32年（1899年）に成立した「北海道旧土人保護法」によって官立のアイヌ学校が設立されることになりました。これ

にもとづいて道庁は、明治34年（1901年）に道内4カ所にアイヌ学校を設置することを決定し、そのうちの1校が虻田に設置されることになりました。このアイヌ学校は、以前からあった第1尋常小学校と区別するために第2尋常小学校と呼ばれました。同年9月23日第2尋常小学校が認可され、教員としての辞令を受け、白井の教員生活が始まりました。明治35年（1902年）4月第2尋常小学校が開校し、明治36年（1903年）には

校長の辞令を受けましたが、専任教師は白井ただ一人の教員兼校長という実態でした。白井の実践は、児童の自律的な活動を重視し、体験・勤労学習や礼儀作法の指導などを積極的に取入れたり、草花の図案化などでアイヌ民族の造形的才能を引き出していきました。

### 第2尋常小学校の閉校

明治34年（1901年）「旧土人教育規定」にもとづいて発足した虻田第2尋常小学校のような学校は、非常に「特殊」な学校で、時代の要請の中で、その差別的な内容など批判が多くなり、大正10年（1921年）に廃校となり、開校から20年アイヌ教育一筋に歩いてきた白井の教員人生に一つの転機が訪れました。4月には第1尋常小学校と合